

多文化便り第一号

たまに発行

多文化マーケット説明会開催

二〇一四年五月二八日(水)、昼休みにアジア祭企画「多文化マーケット」の第二回目の説明会を開催しました。第一回は同月一日に開催しましたが、授業が入っている学生が多く、参加者はわずかでした。そこで、第二回目の説明会を開催することにしました。授業前の雑然とした雰囲気の中で多文化マーケットの企画内容のほぼ全貌が明らかになりました。説明会終了後、多文化マーケットの実行委員を募集したところ、三年生八名が名乗り出ました。実行委員の仕事の内容は、全学で開催されるアジア祭実行委員会に出席すること、教員と学生の連絡係りとなることです。特定の学生に負担がかり過ぎないように心がけます。

多文化マーケットへの道のり

多文化マーケットの企画には三年以上の年月がかかっています。新学科設置会議の際に、多文化コミュニケーション学科一期生には、アジア祭に参加せよと教員の間で合意が得られました。具体的な内容はこのときには決まっていざせんでしたが、一期生が三年になるまで、まだ充分な時間があるので、じっくり考えようということになりました。それだけの教員が東京外国語大学や神田外国語大学などの学園祭に視察に赴きました。各種の外国語大学は、現地で可動式の家屋(テント)や、楽器類、雑貨類などを大量に購入し、大規模な展示を行うことを売りにしています。また、アルバイトで外国人を雇い、現地の言葉や料理を見学者に教えるような催しも行っています。規模の大きな大学であればこうした展示や催しを行うことも可能ですが、本学科のような規模では難しいことです。そこで、手間はかかるけれども、お金をあまりかけない企画はないかと模索した結果、アジアのマーケットを再現するという企画が立ち上がり、最初に行うことの一つです。市場に行くとその土地の食材がわかります。見たこともない野菜や果物、魚などが売られている風景はとも新鮮です。日本にもある野菜が外国ではどのように調理されるのかを想像するのも楽しいものです。

市場(いちば)の調査

市場は古くから文化人類学の調査対象となってきました。フィールドワークを中心とする文化人類学の基礎を築いたマリノフスキーは晩年、若い人類学者ギ・ラ・フエンテを伴ってメキシコのオアハカ州の市場を調査しました。その著書は『市の人類学』として出版されました。マリノフスキーとギ・ラ・フエンテは、オアハカの市場が常設の市場を中心として、周辺の村々が異なる曜日それぞれ市を持つことから、オアハカの市場網を太陽系市場組織と名づけました。メキシコには近年、大型スーパーマーケットが各地に建設されていますが、伝統的な青空市であるティアンギスは衰退することなく、存在し続けています。アメリカの人類学者テオドル・ルスタは長期にわたって築地を調査し、『築地』という書を著しました。この本は、築地の諸制度から日本の文化や社会が見えることを明らかにしました。日本人は一般的に築地のことを知っていても、築地市場の仕組みについてはほとんど知りません。築地は世界最大級の水産物専門市場であると同時に、日本の伝統的食文化を支える装置としての役割も果たしています。グローバル化が進む中でローカルなものがないように残るかを考える上で、各地の市場は格好の研究対象といえます。

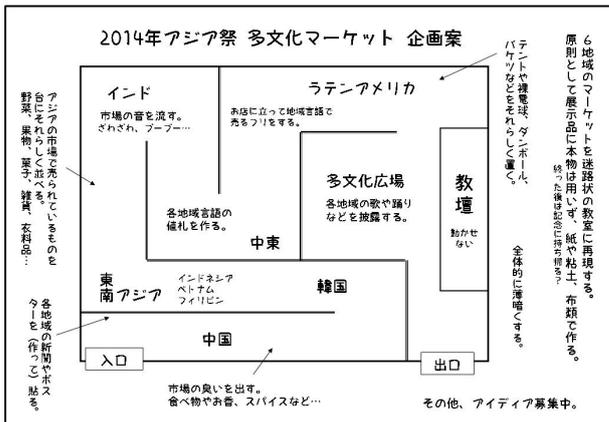


▲ガアのマーケット(2011年9月撮影)



▲ナグバストのマーケット(2013年3月撮影)

多文化マーケット団体名募集 思いついたらすぐにゼミの先生へ!



編集担当 熊島 須

アジア祭日程

- 6月10日(火) 18時 第1回説明会
- 6月19日(木) 昼休み 第1回打合せ
- 7月2日(水) 参加申し込み
- 7月15日(火) 18時 教室抽選会
- 7月6日(日) パンフレット原稿締切
- 8月29日(金) 配布物申し込み
- 10月3日(金) 配布物原稿提出締切